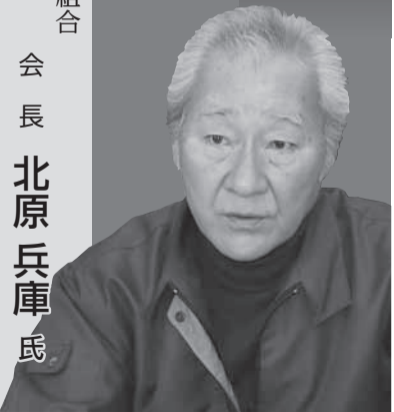


声

業界の



● 山梨県酒造組合

会長 北原兵庫氏

業界の現況は？

当組合では、組合員14社がそれぞれ自社ブランドの日本酒の製造・販売を行っています。売上は約15〜20年前のピーク時に比べ半分程度となっており、厳しい状況が続いています。この要因としては、ここ数年で様々なアルコール飲料が出てきており、消費者の選択が分散してきていることが考えられます。また、飲酒人口の減少も要因の1つだと思われまます。

昨年は、東日本大震災の影響により、東北地方では復興のために地酒を飲もうという「地産地消」の動きがありました。これにより、東北地方の酒造会社は厳しいながらも頑張っていると聞きます。そのため、この「地産地消」の気運を山梨県の地酒(日本酒)にも反映していければと考えています。昨年は試飲イベント等を行い、消費者の方々へ地酒の旨さを知ってもらおうという活動を行ってきました。県内消費者の方がお酒を楽しまれる際、地酒を選んで頂けるような環境作りが大事だと考えています。

今後の展開は？

先ほど述べたとおり、今後は「地産地消」に力を入れていきたいと思えます。そのためには、日本酒をもっと身近なものに感じて頂くことが大事ですし、そのためのイベント等に、今後も力を入れていきたいと思えます。

また、お酒はコミュニケーションツールの1つです。楽しくお酒を飲める環境作りも大事だと思います。そのためには、消費者のニーズをしっかりと把握し、それに合わせた酒造りも重要となってくるでしょう。

その他、山梨県の地酒を県外の方々にも知って頂くため、山梨県と協力し、観光客への周知やPR活動も積極的に行っていききたいと考えています。



日本酒の仕込み風景